

令和3年度 第1回京丹後市子ども未来まちづくり審議会 会議録

1. 開催日時 令和3年6月29日（火）午前10時00分～11時30分
2. 開催場所 大宮庁舎 第2・3会議室
3. 出席者氏名
  - (1) 子ども未来まちづくり審議会委員  
片西委員（会長）、味田委員（副会長）  
田中委員、福木委員、岩渕委員、浜上委員、野木委員、中村委員  
※欠席2名（田崎委員、谷口委員）
  - (2) 事務局  
教育委員会事務局教育次長 引野雅文  
同子ども未来課 課長 服部智昭、課長補佐 蒲田幸宏  
主任兼指導主事 渡利秀子  
※欠席1名（理事兼総括指導主事 久保有紀）
4. 内容  
別紙（会議次第）のとおり
5. 公開又は非公開の別 公開
6. 傍聴人 2名

<開会>

事務局：本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

ただ今から令和3年度第1回京丹後市子ども未来まちづくり審議会を開催させていただきます。なお今年度4月から松本明彦教育長が就任しておりますので、報告をさせていただきます。

それでは、開会にあたりまして、片西会長よりご挨拶をお願いいたします。

会 長：皆さんおはようございます。本日はご多忙の中、また暑い中大変ご苦労様です。

第1回目ということですが、昨年度は9月に集まっていたいで一回のみでした。一昨年度は、第2期子ども・子育て支援事業計画について市長に答申をさせていただきましたので、今年度はないなと思っていましたら、先日6月14日に市長から諮問をとということで、副会長と市役所に行ってきました。今後の子育て支援拠点等のあり方について諮問があったわけですが、答申は10月にはしてほしいということで、随分タイトですねと言っていましたら、今後議会等へも子育て支援のあり方についてのご意見を十分に反映させていきたいということで、そのご意見等が実現されていく道筋につながっていくと思いますので、忌憚のないご意見を出していただきたいと思っております。それから、話している中では天候に関係なく遊べる屋内の施設が欲しいなということがずいぶん前から出ていましたので、そのことについて今日は触れていただけたらと思います。また、先ほどありましたように、教育長が4月に変わられましたので、後ほどご挨拶いただければと思いますけれどもよろしくお願ひします。予定としましては、先ほども言いましたように、10月に市長に答申ということで考えてい

きたいと思いますので、本日を含めて3回くらいの審議会を開催して答申ということにしたいと思いますのでよろしくお願い致します。

事務局：ありがとうございました。続きまして松本教育長よりご挨拶を申し上げます。

教育長：皆様改めましておはようございます。先程ご紹介いただきました4月1日より教育長を拝命しております松本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

私も以前は事務局で総括指導主事として参加させていただいておりましたので、顔なじみの方もいらっしゃいますので安心していただく所ですし、皆さんのこともよく存じ上げておりますので、安心してお任せさせていただきます。

令和3年度も始まりまして3ヶ月が終わろうとしております。この間、こども園・保育所、小中学校におきましては、スタートは大変順調だったわけですが、4月の後半から緊急事態宣言ということで、度重なる延長ということもあり子ども達の保育や教育活動が、今もなお制限のかかった状態の中で活動しているという状況となっております。子ども達にとってはなかなか厳しい状況の中ではありますが、学校や園・所の状況も見させていただく中で、先生方本当に工夫をしながら一生懸命制限の中で保育や教育活動を進めていただいているということに本当にありがたく思っているところです。なお、感染につきましては、家庭内感染はありましたものの園・所や学校での感染は広がっていないという状況もありますので、そういう意味においても各方面での取り組みが丁寧に行われているのではないかと考えているところであります。

さて、片西会長からの挨拶にもありましたように、今後の子育て支援拠点等のあり方について、6月14日に中山市長より本審議会に諮問させていただいたところです。このことにつきましては、市長のマニフェストでも、いつでも子ども達が喜んで遊べるよう、また、子育てサークル等の活動拠点となるよう多目的な施設を整備します、とあります内容と重なるものですし、6月議会においても、今日も傍聴していただいていますけれども、市民の代表である議員の皆様の子育てに関する関心は大変高く、一般質問でも多くのことを教育委員会にご質問いただいておりますので、そうしたことを踏まえまして、是非とも熱心なご審議をお願いしたいと思っています。ただ、会長からもありましたように、大変タイトなスケジュールでの答申ということになるかと思いますが、このことも考慮いただきましてお願いができればと思っています。また、本日はその他にも子ども子育て支援事業の進捗状況についてもご審議いただく予定となっております。この審議会での熱心な意見交換によって、本市での子育てが市民のかたにとってより満足度の高いものとなりますことを願ってご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：ここで、事務局職員にも異動がありましたので紹介をさせていただきます。引野教育次長です。

教育次長：皆様改めましておはようございます。4月1日の人事異動で教育次長を拝命いたしました引野と申します。どうぞよろしく願いいたします。3月までは同じ教育委員会で生涯学習課の課長としてお世話になっておりまして、教育委員会の勤務は長いですが、初めて子育てだとか保育行政に携わらせてもらうことになりました。大変重要な分野だと思っておりますので、委員の皆様方のご支援ご協力をいただきながら頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

事務局：教育長ですが 他の公務がありますのでここで退席をさせていただきますので、ご了承下さい。

それでは、ここからは片西会長に議事進行をお願いします。

会 長：それでは私の方で進めさせていただきます。まず本日の議事録署名人は福木委員さんですのでよろしくお願いいたします。今日の議題は、先ほどもありましたように3つということで、まず今後の子育て支援拠点等のあり方について、2つ目が子ども子育て支援事業について、そしてその他ということで進めていきたいと思っております。まず子育て支援拠点等のあり方についてということですが、今現在現役で色々と活動されている方もおられますし、こども園等に子どもさんが通われていて、保護者の方との交流もあり、色々な意見を聞かれている方もおられますので、実際その日常生活の中で見聞きしておられることや、それから接する人たちから聞かれていることなんかを出していただけたらと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それから、この審議会がある度に言っているのですが、京丹後市は子育て環境日本一を標榜している市でありますので、力も入れていただけることだと思いますし、予算的にもなかなか厳しい中ではありますが、それについても考慮して捻出していただけるものだと思いますので、我々としましてはお金がかかるのでどうのこうのということは度外視して、こうあったらいいだろうなあと理想的な姿を色々出していただいて、実現に向けて取り組んでいただけるように側面から支援していけたらと思っておりますのでよろしくお願いいたします。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局：（1）子育て支援拠点等について説明

添付資料…子育て支援拠点等のあり方について

会 長：ありがとうございました。子育て支援拠点等のあり方についてということで事務局の方から説明をいただきましたけども、まず現状が子育て支援センターや一時預かり、ファミリーサポートセンターで3つに分けて今現在こういう状況であるという説明がありました。それから、今後ということでこういうふうにしていったらということ、当面はとか、ゆくゆくはと近未来的なことや先のことを分けて書いていただいておりますが、あまり広げずとりあえずこの辺からご意見をいただけたらと思っておりますので、現状の子育て支援センター、一時預かり、それからファミリーサポートセンターの状況を見ていただいて、今現在おかれていることあるいは感じておられること等がありましたら、ご意見いただけたらと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

委員：対象は幼児とか乳児とか、あるいは学童も含めてというところなんだろうけど、どういふことを想定しておられるのか、対象はどの辺を考慮しておられるのかご質問させていただきます。

会長：まず対象の説明をお願いいたします。

事務局：対象ですが、現在子育て支援センター等を使っている方が就学前児童でありますので、小学生は今回対象にはせずに考えています。

会長：就学前児童が主な対象ということのようです。よろしいですか。他どうでしょうか。委員は10名ですが今日は2名欠席されており8名ですので割当が多くなりますのでどんどんお願いします。

事務局：この審議会ですが、会長よりありましたように10月に答申を予定しておりまして、今日を含めまして3回は開催したいと考えています。今日につきましては、今提案させていただきましたので率直なご意見もいただきたいと思っておりますし、次回も含めまして色々ご意見を聞かせていただきながら3回目の審議会で方向性をまとめられたらいいのかなと思っておりますのでよろしくお願いします。

会長：3回目でのまとめに繋がるように色々ご提案をお願いします。

委員：支援センターについては、かぶと山こども園を整備され箇所数を増やして今の現状だと思うのですが、支援センターについて話させていただきますが、網野の浅茂川の保育所が網野町の支援センターであり、周辺から行ってもいい支援センターになっていると位置づけて一歩前進していただいたんだと認識をしています。ただし、私の周りにもおばあちゃんだったり、私も支援センターのお手伝いにちょっと入らせていただいたこともあるので、その中で聞かせてもらおうと、やはり宮津のにっこりあなんかの話も出てきます。マインがあるわけですけど、マインの上のお医者さんでもやっぱり弥栄病院とか丹後中央病院とかそういう病院に行くというイメージはなくて、買い物に行ったり気楽に行く場所で体も見てもらえるっていうのが行きやすいという話もお聞きするんですね。そういった付加価値がプラスされて、にっこりあなんかにも本市からも結構利用されているのかなと思います。行きやすいという面では、すごく大きなポイントかなと思います。ただし、前に比べて今乳児の方で保育所利用がすごく多いと思います。前はお家でお母さんとかおばあちゃん達とおられた方が、今はお母さんがお仕事に行かれると、こども園なんかをお願いされるということで、おうちにおられる人が少ないので、たくさんある支援センターなんかも1回に来られる方ってすごく少ないんだろうなと思っています。なので、もし改めて、例えばあのマインですとか新しい拠点を作ってそういうところに入れていくということであれば、少し一定整理もして、バラバラにあっちもこっちもいるんじゃなくて、ある程度的人数が

そこを利用されることでお母さんたちの利用も進む、お母さんたちの交流も進むのかなと感じているので、皆さんとも意見を聞きながら考えていけたらなと思います。

会 長：ありがとうございました。大変悩ましいところで、近くにあるということはそれだけ数がある、数があるということは人数が少なくなる、少なくなるということは交流が限られてくるということですし、逆に大きなところで何か所か数を絞るとそういったことは解消出来る代わりに遠くまで行く必要があるので行きにくいとかという問題も出てくるので、その辺りの兼ね合いも難しいとこだと思いますけどどうでしょうか。

委 員：私は今、代替ということで、たまに子育て支援センターのそれぞれの京丹後市の施設に行かせていただいておりますが、その中で感じることが、拠点というあたりが網野支援センターができたことで、各六町から保護者の方が利用できるということではすごく喜んでおられるのですが、一方で久美浜町の支援センターに行かせていただき、網野町の支援センターに行けるしお弁当も食べられるしどうですかとお声かけをさせていただきますと、良いですけどちょっと遠いから行けないですとか、場所がどこに行ったらいいかわからないんですって言われる方と、それから距離的に久美浜まで行こうと思うと、ゆっくり行っても30分かかかるか、かからないかぐらいなんですけど、午前中とかに行きますと年齢の月齢の小さいお子さんは車の中で寝てしまって、じゃあ支援センターで遊ぼうかなと思ったり関わりを持とうかなと思うとなかなか機嫌が悪くて、結局はもう帰っちゃうとかという方もおられたりする声をお聞きしています。そんな中で、今後総合的な拠点ということで、もし場所をといた時に、峰山とかっていうところを集中的になると、いいんだけど距離が遠いと行きたくても行けないっていうふうなことで、拠点はこれからどこになるかは分かりませんが、不定期に久美浜の方とかに1回ぐらいは設けるとか大体は拠点が中心になるんだけど、たまには周辺部にもするとかいうことも、お母さんたちにとってはいいのかなあなんて感じています。それと今、コロナの関係で自粛があって今年度もずっと自粛中で、この間から支援センターが再開しましたが、お母さんたちの声は、もう嬉しい、家にも子ども達も親もストレスが溜まるので、やっぱりこうして支援センターとか親子で交流できる場があると、親も子も気分が発散できて本当にうれしいし、待ちに待ってました、という声をたくさん聞かせていただきました。

会 長：嬉しいという声を聞くと嬉しいです。今網野の支援センターのことが出てきましたけども、網野支援センターにこの中で最も家の近い委員さん、いかがでしょうか。

委 員：子育てからはどんどんと離れてしまった歳になってまして、孫世代になりつつあるんですけども、私の活動で言わせていただくと、保護者の方でも人数が多い所に行かれるのが苦手な方や、子どもさんも多い人数の中ではちょっとしんどくなったりする方もいらっしゃるんで、そういう点では、ただ大きくてみんな集まったらっていう所ばかりじゃないんじゃないかなって思うので、本当に理想的なことといえば、各

地域にちょこちょこ行ける、歩いて行ける、そしてちょっと機嫌が悪くなったら帰れる、洗濯が干してあるけど雨降ってきたで帰るわと帰れるみたいな距離にあるのが一番良くて、それ以外に多い刺激っていうのもやっぱり子どもにも必要だと思うので、もちろん大人にも必要だと思うので、そういう大きな拠点もあって時にはそこが使えるみたいなのがあったら一番いいのかなっていうふうに思います。子育ての分野でいえばもちろん就学前の話になると思うんですが、兄弟がいらっしゃる方は一緒に連れて行かなきゃいけないこともあったりすると思うので、そこは考えての年齢設定も必要なんじゃないかなと思います。

会 長：ありがとうございました。

委 員：実は子育て支援センターや小さな子どもっていうのが、僕も孫がいるわけでもないですし、そういった経験があまりないので、現状の中でということでお話を聞かせていただいて、そうなんだというぐらいの認識しかなくて、今までこの子育て支援センター及び一時預かり、ファミリーサポートセンター等がありながら、なおかつ拠点を新たに目指したいというビジョンもよくわかっていません。天候に関係なく遊べて交流の場というのは、これは現状でも当然それはあるだろうと思うんですけども、それをなおかつ大きな形っていうか、拠点を設定することも理念がよくわかってないこともあるんですけども、ただやはりこの少子化の中で、地域っていうのはとても大事ではあるけども、地域を限定してしまうと対象児童・対象者とかが少ないという中で、寄って子育てするのは同世代でしょうから、そういった情報交換や近くで物事を済ませるのは便利なんだけど、出かけていく中で大きな構想と言うか、子育ての色々な人の知恵やアイデアがあって子育ても膨らむのではないかなと思っております。実は京都市に娘がいて、初孫ができたのですが、彼女は親もいない中で一番頼りにしていたのが児童館だったようです。児童館の中で子ども達が遊べるということももちろんですし、とにかく祖父母がいないので、同世代子育ての経験をした方にお話を聞きながら、そこにヒントをいただきながらっていう、手探りの中で子育てに有益だっていう話は聞きます。そういう意味で、京都市とはまた違う田舎の現状はあるにしても、これからの少子化の中でどう子育てとしてグローバルっていうか、もう少し色々な人と交わり合いながら育てていくというような、出かけて行って初めて物事を獲得するという子育ての仕方もあると思うので、そこに出かけるにあたっては障害があるというのは思いますけども、この拠点づくりというのはこれからの時代に良いなと思いますので、もう少し皆さんのご意見も聞きながら内容を整理していきたいと思っております。

会 長：ありがとうございました。それでは、現在お子様がこども園に通っておられて、実情が分かっておられる委員さんどうでしょうか。

委 員：はい。うちも娘はもう卒園してしましまして、小学生になったので対象ではないのですが、子育て支援センターを見ていると、現状ですと今こども園内とか保育所内

とかそういったところが多いんですけど、もっと地域に自分たちに近いところ、今公民館とか本当に綺麗になっているところも多いので、逆に地域の方の交流、色々な年齢との交流ということを考えて、公民館等の利用っていうのも一つ考えられるのではないかなとは思ったのですが、現状そのようなことはないのでしょうか。

事務局：それぞれの地区でサロンもしていただいています、その中で子育てのサロンがあります。そういったことで週一回だとかそういった活動っていうのは現在もされています。

委員：子育てサロンがあるということですが、そういった施設を逆にもっともっとオープンにしていって、利用する事っていうのは出来ないかなあというのがありまして、地域内でも子ども達の声聞かないとか、子ども達がいなくて寂しいなっていう声もあるっていう京丹後の現状からすると、地域内にそういった拠点が常に遊びに行けるような仕掛けっていうのも考えられるのではないかなと、この構想にありますゆくゆくは大きな施設をふるさと納税でしっかり稼いでいただいて、作っていただいたらと思いますが、現在近い将来を見据える、今あるものプラスアルファ身近な所で拠点を増やしていくっていう、充実させていくっていう方向もありなのかなと思います。特にコロナのこともありますので、密になることが難しいとか、クラスターに対する配慮もあると思うので、そんなことを考えておりました。

会長：ありがとうございました。私の知った人も地域での公民館で子育て的なことはしておられるところもありますし、そういったことを広報はしていただいている、来るものは拒まず来てもらったら良いという体制は整えてもらっているようですが、なかなかそれが広がっていかないとか、決まった人が来ることで増えてはないようで、一番の促進は来ている人の口コミで、こんなところがあるし行ってみたらということ誰々が来てくれたということは聞きますけども、行っている人からじわじわと広がるような形では広がっているようですけども、そのことも一つの視点としてみればどうかと思いますし、先ほど意見にあった少子化という視点も、この京丹後市においてはびっくりするような、その学校そんなに子どもが少なかったんかということを感じてはいますけども、本当にすごい勢いで少子化になっていますので、そのことも含めて考えていかないとと思って聞かせていただいていたました。

委員：私からは、子育てをされている方皆さん、つながりたいという気持ちは持っておられるようですが、場所っていうところで悩まれたりとかどこに行ったら良いだろう、誰に相談したらいいだろうっていうのは、あるようには聞いていますが、にっこりあのような施設っていうのが京丹後市にあればいいけれども、今すぐそれがどこかにできるかという、とても難しいなと思います。でも出来るのが何かないのかな、どうしたら出来るのかなっていうふうに考えると、先ほどあったように公民館であったり、今ある支援センターをもう少し充実させるとか、広報もしっかりとされてはいますけども、色々なネットワークで、例えば保健師さんとか、口コミはもちろんですし、来

てもらえるようにしていったらいいなと思います。だけど、雨が降っても遊べる安心して遊べる場所とか、おしゃべりができるとか、食事、食べるってことはすごく集まったりするので、おやつであったりお昼ご飯を持って行っても食べれるとか、ここでお金を出したら食べられるとか、そういうようなどうやったら集えるかなとか、行きにくい人たちも来れるかなとか、ひとりで子育てされている人がいるっていうような情報があったら、その人たちにも声かけられるとか、どうやったらそうやって楽しんで子育てが出来るのかなっていうことを考えていって、その場所を作っていけたらいいなと漠然とですが思います。

委員：先ほどから、お話の中でっこりあということが出ていますが、それをなんかモデルにされてるような感じも伺うんですが、どんな場所ですかご説明いただけませんかしょうか。

委員：併せて舞鶴にもありますよね、施設が。それも一緒にご説明をお願いします。

事務局：っこりあは、宮津のミップルの中にある施設ですが、近くに図書館があったり支援センター的な施設でありまして、市内外どなたでも使用できる施設であります。それで当然ミップルの中ですので、買い物しながらお子さんを預けてということもできますので、ニーズ調査でもっこりあという名前も聞かせていただいておりますし、昨年度実施のはは笑みプロジェクトの中でもあのような施設があったらいいなという声も聞かせていただいております。そうなってくると当然京丹後市でいえば マインという建物がありますが、そこについては昨年度色々協議もしましたが、現状ではマインの中に同じような施設を組み込むのは難しいというところです。

舞鶴市にありますあそびあむという施設ですが、こちらは多世代交流施設だったと思います。老人から子どもまで保護者も含めて集うことができる施設ということで、いつでも利用することはできるという施設です。色々なゾーンに分かれていまして、年齢に応じて遊びに行けるっていうようなところもあるというふうに認識しています。

会長：舞鶴のどちらにあるんですか。

事務局：市役所の近くだったと思います。

会長：ミップルの施設は私も外からは見て、図書館の廊下からなかなかいい雰囲気だなと思って見たことはありますが、舞鶴にもそういうのがあるんですね。またちょっと見てみたいですね。

委員：なんかここよりもっと前の話になって申し訳ないですが、天候に関係なく遊べる施設がほしいっていう意見もあるということで、常に交流して人がいなくても遊べるような施設がほしいっていう意味は入ってないですか。支援員さんがいないと使えない



施設、例えば浅茂川の保育所だったらオープンの日しか使えないとかがありますよね。そうじゃなくて、この時間じゃなくてもふらっと、丹後王国に芝生の上に屋根があるってような思いはこの中には含まれてないんでしょうか。それと、私の夢を言っていますか。夢というか、浅茂川の保育所が今のような支援施設になった時に、給食室があります、浅茂川の子どもが少なくなっています、地域の高齢者の方等も地域の子ども達の声が聞こえなくなったって、保育所がなくなったからってという声がありました。地域の高齢者の方にも行くところがないっていう中で、私と主人が、うち飲食業をしているので、あそこの保育所の中の給食室を使って週に一回とか何回とかご飯を作れる状況を作って、高齢者の方も来てもらう、子育てをしておられる世代も来てもらう、一緒に交流しながらおばあちゃん達も子どもを見ながらご飯を食べれるとか、そういうこと出来たらいいよねって言うてある方に使えないのかなあって聞いたら、今の状態では使えませんという答えが返ってきたんですけど、せっかくある施設なので、もっと有意義な地域で使えるような、地域で子どもだけがとかじゃなくて、それこそ舞鶴の多世代ってすごいなあって思ったので、色々な年齢の方が来て地域の子っていわれながら、地域からいなくなっているのが現状だと思うので、誰もがあそこの子だねとか、常に声をかけられやすいような、若い世代の人に対して、若い方からも高齢者の方に対してもそうですけど、そういう交流が出来るようなものが作られるのが一番いいんじゃないかなって思いました。

会 長：浅茂川保育所がまだありし頃には、大昭区の高齢者の方がそこに行って交流したりということも聞きました。そういうふらっと行って遊べるところをイメージしているのか、ある程度きちっとして子育て支援のことも視点に入れながらの施設なのか、そのあたり間口がどれくらい広がってるのかということも含めての質問だったと思いますが、どんなことをイメージされていますか。

事務局：それにつきましては、責任がある施設ということで、ふらっと行って遊べるところも良いかも分かりませんが、そういうことではなくて今の支援センター的な施設をイメージはしています。ただし、色々な視点からご意見を聞かせていただきながら、どのような施設が一番いいのかということを考えていければと思いますので、ご意見がいただければと思います。

会 長：それも悩ましいところで、ある程度行政としてはカチッとこういうものをというイメージをしないと、責任ということも出てきます。かといってそれがあまりにもしつかりしすぎると、自由に出入りがしにくいとか、敷居が高くなることもありますので、そのことをどの辺で整理していくかということが難しいと思いますが、先ほどから言っていますが、自由に言えるところでもありますので、こんなことが良いだろうとか出していただいて、それをまとめてもらったと思いますのでどんどん出していただけたらと思います。

委 員：私も子育てからだいぶ離れましたので、そういう状況なのかということで聞かせて

いただきました。それで思いましたのは、大きな施設、複合的なものの施設の役割と、それから実際に普段、近くで使えるものと役割がちょっと違うのかなというふうに思って聞かせていただきました。ここに出てるのはもしかしたらその大きなところでこの構想の中にも乗っかってくるのですね。にっこりあもとても良いのは、子育ての部署も近くにあるということで、そういうものも一緒にあってそこで済ませられるという色々なことができるっていうのはとても意味があるなあと思いました。一方で、じゃあ実際使うとなると、やっぱり近くにあった方がいいなという声はもうこれは絶対あると思いますので、先ほど委員さんからもありましたように、近くにあるものが利用できないかなというのは私も感じました。そんな中で、今子育てセンター8施設あるんですけど、これはニーズにあるような雨の日も遊ぶ施設ではない、交流できる施設ではない、広範囲から利用できる施設ではないということなんでしょうか。この施設がそういうものであれば、もっとここを使えば良いかなと思いました。

事務局：現在の子育て支援センターは、こども園の保育室の一室を使ってしているということもあって、広さ的にはそんなに大きくはないというところでは。利用者も結構ありますので、登録制ということで保護者の方にしたら一施設しか登録していただけない、そうすると、峰山に登録をされた方については峰山の施設しか利用ができないという運用になっています。なので、多くの方が来られると遊ぶスペースが限られてしまうというようなこともあって、施設が狭いが故にちょっと利用制限というようなことになっています。支援センターですので交流はしていただけます。そういった課題が少しあるということで、自由に来ていただくということになっていません。

会長：今回回答いただきましたが、8支援センターの中で、例えば網野は狭くない、その支援センターの部屋もありますけども、かつてのグラウンドもありますし、かなり広いスペースがあると思うので、もし地域に広く解放すると、ある程度の縛りは必要でしょうけども、他とは違って広い場所を使っての自由な活動ができることを頭に置かれるならば、一つのモデルプランとして、ここはこういうこともできますというようなことをしてもらったら、そんなことならちょっと無理してでも行ってみようかなという人が現れるかもしれませんし、多くがこうだから全て子育て支援センターはこのような制限がありますということではなく、ここはこのようなことをしてみたらどうかと、新しい試みとしてこんなことをしてみたらどうかということもしていただけたら広がっていく一つのきっかけになるかなとは思いますがその辺りのでしょうか。

事務局：今おっしゃられたように、網野の支援センターは旧浅茂川保育所を基本的には一棟、一部屋は老人クラブが使われていますが、ほぼ全室使っているという状況で、広さはそこそこあります。網野の利用者の方ももちろんそうなんですけど、開放日ということで週に3回、火・水・木曜日は市内全域から来ていただいてもいいですという日をつけています。そういった利用をしているという状況です。ゆくゆくはここも全部解放ができたらいいかんと思っはいます。

会 長：そういう条件ですので、内容面についてもこんなことも出来ますよというようなことも膨らませていったらと思います。それでは、支援センターのことがちょっと多くなりましたけど、公園ですね、雨の日でもということがありましたけども、以前から雨の日でも活動できるような、屋根のある公園とかも出てましたけども、京丹後市全体で拠点を集っての公園、あるいは地域で小さくても地区のある公園と色々と形態はあると思いますが、公園についての思いもちょっと聞かせていただけたらと思いますのでいかがでしょうか。

委 員：昔は近くにブランコがあったり滑り台があったりするような公園があったと思うんですけど、今ほとんどなくて、たまにあっても整備がされてなくて危険な状況ということだと思います。市も関わったところが2箇所あったんですけど、そこも使われてないと思いますし、あるならば公園が地域にあって、簡単な遊具などがあればいいのかなと思います。なかなかできてないのが現状かなと思います。私は峰山で、途中ヶ丘が近いんですけど、途中ヶ丘の公園なんか小学生ぐらいの子が十分遊べるので、お天気の日なんかの休みなんかたくさん色々なところからいらっしゃって、お弁当も開けてちょっとテントを張って、お母さんと中に入って休んだりしながら1日遊べている状況があります。先ほどの支援センターもそうですけど、近くにそういうところがあったらいいなというのは本当にそのように思いますが、お金は考えなくてもいいということですけどなかなか難しい、ただし、本当に使えるところが一箇所なので、できればもう少しあって、それをどこに建てるかは別として、雨が降ったらその中でも遊べるしというようなことがもし作れたら本当にいいのかなという思いは持ちます。

委 員：今に加えてちょっと質問なんですけど、地域の公園とかっていうのもあるのですが、私の方で言いますと網野町の浅茂川になるんですけど、区が管理されている公園が家の前にあって子どももたくさん来ていたんですけど、以前あった遊具が老朽化して、事故があった時に誰が責任を持つかということで無くなってしまったりとか、それから海の近くにCCZもあるんですけど、すぐ近くにも総合的な色々な遊具があったんですけど、そこも子ども達の憩いの場、お母さん達もお弁当を持って食べたりされてたんですけど、老朽化してほとんどなくなって、今は草が生えてあれだけ素晴らしかった遊びの場が今はなんか寂しくなったなっていうことも感じたりするので、遊ぶ場所っていうか公園っていうのもなんか狭くなってきてるかなというふうな感じがします。途中ヶ丘も遊具がちょっと大きいので、年齢対象が就学前ぐらいからになっているので、0歳からっていうと遊べないということも耳にします。

委 員：同じ区民としてお話があったんですけど、実はこの4月から区長をしております、我が区にも公園はあるんですけど、先ほどおっしゃったように管理上色々な制約があったり、区だけで維持していったり充実させるという事は大変財政的にも難しいです。公園ですから歩いて集える場所というのは理想だと思いますが、以前あったところも

老朽化してということで、本当に公園そのものを区で管理していくことは無理だと思いますし、ただし、そうすると子ども達が道路で遊んでいます。このことは大変悩ましいところで、子どもに何かあっても困るし、区としてもきちんと整備して、どんどん遊びなさいよっていうこともできない、どうあるべきなのかなっていうふうには思います。ただ、本当にそういう意味では、手近に色々な物を活用しながら、何かできたら非常にいいのですが、それだけではそれを維持したり管理したり充実させていくには、人材も含めて大変難しいとなるとやはり拠点といたしまししょうか、先ほどからありますやはりどこかに、場所的に近い遠いは生じてくるんですが、子育てを大きな視点で捉えていくということもしながら、出かけられないことについてはもう少しケアしていくということにしていかないと、二つを狙うことは大変なので、京丹後全体を地域という捉え方をしながら、これからの子育てというか、教育をしていかないと、今まではこうだったからとこうしていくといっても、両立をしえないだろうと思ったりもするので、その点では、我々も考えていかないといけない課題かなと思います。

会 長：ありがとうございました。公園についてはそのようなニーズもあるということをお聞きいただけたと思いますし、やっぱり遊具を設置するとなると、本当に維持管理が、そこからがスタートということになりますので大変だと思いますし、子どもにとっては、本当は野原さえあったら色々な遊びができましたので、安全な空間をそれぞれの地域で作っていただくことがあの子どもにとっては一番の楽しみにも遊びにもつながるのかなと思います。時間の方が気になってきまして、今一つ目の議題で長いこと時間をとっていますので、二つ目の議題にいかせていただきたいと思います。それでは子ども・子育て支援事業について事務局の方からお願いします。

事務局：(2) 子ども・子育て支援事業について説明

添付資料…子ども・子育て支援事業計画進捗状況

委 員：0歳児ですが、いっぱい預けられないっていう声を聞きまして、その理由の一つが10月の時点で生まれてないと次の年の申し込みができないからすごく不利だっていう声を私当事者じゃないので分からないんですけども、10月の時点でもうすでに一杯になってしまっているんで、隣の自治体では生まれてなくてもその年度が予定日の方も申し込みができるところがあるようですが、0歳児で預けて復帰したいんだけど一杯でしたという声がありましたので、より良い方法があればしていただきたいなと思いました。あと、ここじゃない福祉の方なのかもしれないんですけど、子ども連れて検診とかって行けるのですか。子どもを預かってくれるようなキッズコーナーじゃなくて、もうちょっと小さい乳児預かりみたいな、親が注射に行ったり健康診断に行ったり、セミナーに参加したいとか、小さい子どもを連れてお母さんが外に出るときに、その現場で子どもを預かってもらえるような制度みたいなのはどれぐらいあるのかなっていうのもちょっと気になりました。

会 長：はい、二つありましたけど0歳児の方は事実でしょうか。10月で出生してないと

入れないのでしょうか。

事務局：出生届が出てないと入所募集をしていただけないということです。児童のお名前をいただいてから申し込みをいただいているということで、今はこのような運用をさせていただいています。

会 長：でも、例えば11月に生まれることははっきりしてるんで、予定でというようなことが受け付けて欲しいというニーズが高ければ、それは検討する余地はあるんですか。

事務局：検討する余地はあるのかなと思います。

会 長：そういう声もあるということもお聞きおきいただけたらと思います。乳児預かりの方についてはいかがでしょうか。

事務局：検診等での子どもの預かりですが、現在ではないと思います。ですので、ファミリーサポートセンター事業とか一時預かりとか実際そのような申請もありますので、子どもさんを預けておいてお母さんが通院されるとかそういうことは聞いています。その会場で預かることはないと思っています。

会 長：場所は変わるけど、ファミリーサポートセンター等での対応は可能ですね。他どうでしょうか。概ね100%に近い充足率ということで、特に放課後児童健全育成事業は100%を超えるということで、超えてはいるけども要望がある子どもについては皆受け入れてもらっているのですね。ニーズも高いようです、ニーズを満たしているという状況になっているようです。他どうでしょうか。

委 員：放課後児童クラブですけど、私昨年一年間関わっていたんですけども、おっしゃるように人数が十分充足してますし、保護者のニーズが大変高いと思っています。しかし、現状は非常に狭い学校の施設の一部ということで、大変狭いエリアで多くの子どもが活動しているというふうに思っていますし、預かるということが大きな就労の支援、大きな柱ではありますが、1時間から3時間の中でその内容は、子どもにとってはしぶしぶいやいや来ている子がほとんどであります。そこに来てよかった、来ていてよかったというか、そういう内容作りがまだまだだと非常に不十分だというふうに思っています。これはちょっと言い方はあれですが、子どもの犠牲の上に成り立っているような気がして仕方ないです。ですから、その辺り受け入れるのはもちろん仕事に関しては大変貴重な場所ではあると思いますけども、通ってくる子ども達にとっても来てよかったというような内容作りをお願いしたいと思っています。

委 員：今のお話ですが、確かに家に帰りたい、帰って地域の子どもと遊びたいけど行かなくちゃいけないって方もいらっしゃると思うんですが、私自身も、孫がお世話になっていたり、それからこちらではなくて京都市の方なんですが、仕事の中で保護者の方

の意見も聞いたりする機会もこれまでからあったりしたんですが、そこに行っている子どもは確かにそういうふうに、そこでは嫌だと思える子もいるけれども、逆に家ではなかなか縦の関係ができないけど、放課後児童クラブに行っているのもそこで上の方との繋がりができて、何か困った時助けてもらったとか、それからの誕生会とか一緒にする中でそういう人と仲良くなれて、なかなかクラスの中でパッと溶け込めないけど、そこに行ったら学年の集団が小さくなるので、そういうところで元気になったとかそういう話も聞くので、良いところも伸ばしていただいて、今言ったように充足するとかもう少し考えていくべきところはしていただけたらいいのかなと思います。必ずしも悪いばかりではなくて、その中で伸びている部分もあると思って、孫を見ててあそこに行ったからよかったなと思うことも沢山あるなと感じています。

委員：昨年関わる中で研修にも行ったのですが、京都市内の児童館と京丹後市の子育て健全育成事業とはかなり内容的には違うなど、研修ですから聞いただけですけども、そういう意味では京都市内の、伝統もあるし保護者会との結びつきもあるし、支援員さん達もどのように子ども達に力をつけて、あるいは横の力や縦の力をつけて、工夫の見られる感じが感じられたのですが、正直僕が関わったところだけかもしれませんが、不十分だなと思って、人数が多い中で預かって完了ではなくて、中身や内容作りを是非子ども未来課で、何が不十分なのかも検討していただければと思っています。

会長：ありがとうございます。保護者にとっては、やっぱり自分が勤めから帰るまでの間は、公的な機関で安心して子どもを預けたいという気持ちは高いと思います。それがニーズの高さにつながっていると思いますが、実際1年間活動された方の思いとして、内容面で、体制面でどうかなというのは感じられたなということで、やっぱり指導員と保護者との信頼関係でありますとか、あるいはその活動の中で子どもの満足度が親に伝われば、保護者との信頼関係に帰っていくと思いますし、良さの発見にもつながっていると思いますので、研修もあるそうですので、こういった視点で指導員の方が子どもに接して欲しいとかいうようなこと、あるいは内容面でこういうこともできるよというようなことなど、これだけニーズの高い事業につきましては、より充実させていくような方向で考えていただけたらと思います。時間が気になりますが、特に他にありませんか。

委員：前回は少し言わせていただきましたが、網野町だけ放課後子ども教室というのを実施しています。週に一回、水曜日に学校から早く帰りますので空き教室を利用して行っており、今年で5年目になります。他町につきましては、そういう計画も上がっていたんですが、空き教室がないということで、網野町だったらあるということで、網野南小と網野北小の子どもたちが水曜日に利用しているんですが、網野北小では今年42名というすごい利用が増えまして、児童クラブの方では子どもさんがちょっとイヤイヤという部分もあったりするということもお聞きしたんですが、子ども教室につきましては、憩いを求めているのか、スタッフがおっちゃんおばちゃんとかおじいちゃんおばあちゃんの年齢になるので、何か子ども達がゆったりできる部分が欲

しいって思うのか、すごく人数が増えてきたっていうのは、目標が居場所作りっていう狙いにもなっていますので、すごく利用度が上がってきているなど、そのぶんスタッフが老体なので、頑張らなくちゃいけないなと思っています。そういうものがあるということをおっしゃっていただきました。

会 長：ありがとうございました。対象の機関が全然違いますが、こちらは週1回、こちらは毎日で、かたや非常に満足度の高いということで、その辺りのノウハウも教えていただきながら、良さを学び合っていけたらと思います。他はいかがでしょうか。無いようでしたら、2番の子育て支援事業について終わりたいと思いますし、全体を通してその他ということで何かありましたらお願いします。

事務局より、京丹後市子育て環境支援設備補助金の制度及び7月21日実施予定のはは笑みプロジェクト事業について、周知のため概要説明

教育次長：時間がない中ですが一言だけ、少し戻りますが、子育て支援拠点等について、委員の皆さまから参考になるご意見や、なるほどと思うご意見をたくさん聞かせていただきありがとうございました。拠点施設が出来たら保護者の皆さんのニーズが酌み取れるかといえばそうではないのかなということで、仮に拠点施設が必要だということになっても、先ほどから話があります地域の公園や公民館であったり、支援センターもありますけども、支援センターだけではなかなか課題もあるということですので、その辺のバランスといいますか、そういったことへの手立ても一緒に考えていく必要があるのかなということは感じさせてもらいました。資料1の2ページに都市拠点という資料もつけさせてもらったんですが、現在議会でこれに関係する予算を審議中です。この中で先ほども説明があったんですが、1の都市拠点の在り方というものを、検討会議の予算を議会で認めていただけましたら、都市拠点に何を、どんな機能を整備する必要があるかということ具体的に検討に入っていく、これは令和3年度と令和4年度ぐらいの計画になっています。ですので、この審議会で子育ての拠点施設がこういった場所に必要だという方向性がありましたら、こういったところにつなげていくこともできるということで、この都市拠点の検討にはこの子ども未来まちづくり審議会の状況も報告させていただくことも考えていますし、一方で、この場で中心的に議論していただくことではないかも分かりませんが、図書館も教育委員会ではこういった場所に必要かなということも考えておまして、その辺りを総合的に市全体として今考えていくスタートにあるということでご理解ご認識いただき、今日も色々なご意見いただきましたけども、さらにあと2回ですかね、方向性をまとめていただければありがたいと思います。

会 長：ありがとうございました。それでは、その他も無いようですので、閉会の挨拶ということですが、次回の日程は決めておかなくていいですか。

事務局：10月までに3回の審議会を予定しており、次回は8月にできればと思っています。

日程は今日決めずに、改めて調整させていただきます。

会 長：それでは、最後に副会長より閉会の挨拶をお願いします。

副会長：本日は大変お忙しい中、熱心にご審議をいただきましてありがとうございます。先ほど次長からありましたように、都市拠点等のあり方という意味での子育て拠点のあり方っていうのと、今日皆さんからたくさん出していただいた、もっと身近な地域での公民館であるとか、地域の公園であるとか、あるいは委員さんからは使えないのかみたいな、とても前向きなご意見もいただきまして、そういうところが本当に大切になってくるんじゃないかなと思って聞かせていただきました。なんでもかんでも市の方にしてもらうのではなくて、せっかくそうやって地域の方が、地域でこういうことが出来ないかっていうご意見をもっともっと増やしていけるような、そして、出来ないであれば出来るようにしていただくことが大切になってくると思っています。地域の公民館のサロンももちろん地域の方ですし、公園も、例えば今勝手に耕さないでくれ、勝手に花を植えないでくれと言われるんですが、やってやろうっていう方がそういうところを整理出来るような、出来ないことを出来るようにしていただくのも必要だなと思っていました。今ありましたように、都市拠点のあり方という中で、そういう子育て支援の施設についてもまとめていく必要があるなと思いますので、タイトになりますが、今後ともどうぞ宜しくお願いします。本日はお疲れ様でした。